

つりあがった目、ネコのような口、3本指の手、下半身を失ったその姿はまるで両腕を失ったピナス像のように見る人の想像力をかき立てます。現在、東京上野にある東京国立博物館に収蔵展示されている黒駒土偶は、縄文時代中期の代表的な土偶として知られ、教科書などでも紹介されてきました。

女性像といわれている土偶のなかにはこのように奇異な姿で表現されたものがあります。これらの奇異な土偶たちの多くは大型で、バラバラにされている度合いが少なく、復元可能なものが多いようです。この土偶も上半身のみのお出ですが、類例から下半身が近くに埋まっているのではと考える研究者もいます。

この土偶に代表されるように甲府盆地東縁の丘陵地帯は、今から5000年から4000年前の「立つ土偶」を持つ文化圏の中心地域でした。中央自動車道釈迦堂パーキングエリア一带に広がる釈迦堂遺跡からは1116個体の土偶（これは全国出土量の約10パーセント弱にあたる）が出土しています。

笛吹市探訪

シリーズ 第9回

土偶の里 / 縄文の邑



黒駒土偶レプリカ(本物は国立博物館蔵)
吊り上った目、3本指、呪術的様相が漂う土偶

また、御坂東小学校南の台地に広がる桂野遺跡からは胴体が上下2つに折られた約5000年前と約4200年前の立つ土偶など1000点ちかくが出土しています。縄文のピナスと呼ばれる土偶や、近年発掘された仮面土偶など、八ヶ岳周辺から出土した土偶たちが全国ニュースで紹介され、話題をさらっていたことを記憶して、私の方が多いのではと思いますが、私たちの住む笛吹市は、実は縄文時代立像土偶（以下「立つ土偶」）文化の中心地であったということを知っていただきたいと思えます。そしてそこには豊かな森が広がっていました。森は縄文文化の源です。市内からは、立つ土偶の前段階の板状土偶からはじまり、約5000年前のカツパ型といわれる初期段階の立つ土偶、有名な縄文のピナスとほぼ同じ表情の土偶、約4700年前の呪術的な趣の漂う黒駒土偶、約4200年前の写実的で人体表現の優品とされる両手をひろげた土偶など出現期から最盛期、衰退期までほぼすべての段階の優品がそろっています。私たち社会教育課では、これら

のすばらしい土偶文化とそれら生み出した縄文時代の笛吹市の姿を全国に発信するとともに市民の皆様にも笛吹市の豊かな歴史と文化財を大いに誇っていただくよう情報を発信していきたいと思えます。今後このシリーズにご期待ください。

笛吹市教育委員会 社会教育課

5000年前の土偶 平らな頭が特徴。御坂地区の子どもたちの投票で「みさかっぱ」と名づけられた



肩に手を置く土偶 妊娠中、肩がこっているのか。通称かたこり土偶



4200年前の土偶 写実的で見事なプロポーション。通称バンザイ土偶、またはでっちり土偶